



## ●世界のシルク産業（タイ）

シルク産業は世界中で行われていて、世界最大の繭・生糸生産を誇る中国、世界最高品質の生糸を生産するブラジル、また、東南アジアなどの新興国でもシルク生産が活発化しています。そこで今回はタイ王国のシルク事情についてご紹介します。

タイは、世界でも特に養蚕が盛んな国の一つです。繭の生産量は日本の8～10倍ほどで、スカーフや衣服などシルクを使った製品を数多く生産しています。しかし近年、シルク産業高度化の波の中で、収益性・品質面で競合国に先行されています。この現状を打破すべく、未来のシルク産業づくりに取り組むタイのテキスタイル協会理事（チャンチャイ氏）に話を伺いました。

「タイシルクの特徴は、生糸の節を残すなど天然本来の良さを生かした“ものづくり”に取り組んでいて、古くからシルクのデザインに関する技術が蓄積されている。現在ではイタリアの企業と共同で、欧米向けのシルク生地開発を進めていて、プルミエール・ビジョン（パリで開催される世界最大の生地見本市）でも展

示し、世界のファッションブランドから引き合いがある」とのこと。

一方、課題としては「生糸の品質では、ブラジルや中国に及ばないが、新たな付加価値を模索している。一つの方向性として、洗濯可能なシルクを生産する研究開発をしているが、この分野は日本に強みがあると感じていて、高付加価値化のために共に取り組みたい」と話しています。

タイと日本が共同で、未来のシルク産業を考えて創り上げることは、日本や山鹿のプロジェクト成功へ向けて、大きな意味を持つかもしれません。



チャンチャイ氏

※新シルク蚕業構想の情報は、次のWEBサイトでも発信しています。ぜひご覧ください。

<http://www.silk-on-valley-yamaga.jp/>